



金融経済教育だより

令和8年6月1日

清水小学校

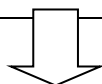
第7号

昨年度より、本校の金融経済教育にご協力いただき、誠にありがとうございました。今年度も、昨年度の成果と課題を生かしながら研究を積み上げていきたいと思ひます。どうぞご協力の程、よろしくお願いいたします。

昨年度末に実施しましたアンケート結果（児童と保護者）と今年度の取組についてお知らせします。

【アンケート分析】

- 「買う前に本当に必要かどうか考えているか」の問いに対しては、「欲しいから買う」ではなく、「これは本当に必要かどうか考えて買う」と多くの児童（1～3年生→83%、4～6年→98%）が回答しました。金融機関と連携した出前授業などを通して、限られた資源（もの）やお金を大切に、計画的に使うとする判断力が身に付き始めていると思われます。
- 「家でお金についてどのくらい話をしますか」の問いに対しては、児童・保護者ともに肯定的な数値が少しずつ上昇しています。記述内容からも、各教科や出前授業の実践で学んだ内容が金融経済教育だよりを通して家庭に伝わり、お金やもの、社会の仕組み等に関する会話のきっかけとなっているというご意見も複数見られました。
- お手伝いの問いに対しては、お手伝いがんばり週間中は、「毎日する」と回答した児童が大きく増加し、「働くこと」への意識の変化が見られました。お手伝いがんばり週間後は頻度が下がる傾向はあるものの、アンケートの記述内容から「家事の大変さに気付いた」「家族の一員として役に立つ喜びを味わうことができた」「感謝の言葉が増えた」「できることが増えた」など、働くことの意義への理解が深まってきたことが分かりました。また、ありがとう集会を通して、身近な人々への存在や支えを知り、感謝する心が育ってきました。
- 「ものを大切にしているか」の問いに対しては、児童・保護者ともに「以前よりものを大切にするようになった」と答える割合が増加しました。昨年度の「落とし物〇運動」や日々の指導により、持ち物を単なる「もの」ではなく、大切にすべき対象として再認識する精神的な成長も見られました。実際、各学級の毎月の落とし物の数は徐々に減少していきました。記名することで、自分の持ち物に責任を持つことの大切さも学べたようです。



【今年度の取組について】

研究テーマ『ものやお金・人とのつながりからよりよい生活を目指し、たくましく生きる児童の育成』の下、昨年度の実践を工夫改善しながら継続して取り組んで参ります。（昨年度の実践内容は清水小のホームページ内にある金融経済教育だよりに掲載中です。ぜひご覧ください。）

改善点

- 今年度も各学年の金融経済教育のねらいを達成するために、地域や金融機関等と連携しながら出前授業の実践や教科横断的な取組を行っていききたいと思ひます。

今年度は、よりたくさんの方に本校の取組を知っていただくために、各学年、金融経済教育の視点に立った授業を参観日に公開します。ぜひご参観いただけたらと思ひます。詳細につきましては、各学年の学年だよりにてお知らせします。（各学年実施月は違います。）